※令和３年度以前入学生用

大阪府立淀商業高等学校　福祉ボランティア科２年生（令和４年度）

教科	福祉	科目	介護福祉基礎	単位数	３単位	年次	２年次
使用教科書	「介護福祉基礎」　（実教出版）						
副教材等	「介護職員初任者研修テキスト」（ＱＯＬサービス） 「見て覚える介護福祉士国試ナビ」（中央法規）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

介護従事者として、必要な基本的な倫理観と態度を学ぶとともに、個人の尊厳や自立支援など一人ひとりの利用者に応じた介護について考えていきます。２年生では、特に介護現場の安全確保と事故防止策や、新型コロナウイルスなどの感染予防の必要性や意義について事例を通じて、介護福祉士として必要な専門性を身に付けます。

①超高齢社会における介護の問題に興味や関心を持って授業に取り組み、グループワークや発表など、積極的に参加しましょう。

②２年福祉科目の授業のなかで介護職員初任者研修課程を実施し、資格取得をめざします。

③国家資格である介護福祉士の受験資格を取得するために必要な科目です。

2　学習の到達目標

介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援など介護の意義と役割を理解させ、介護を適切に行う能力と態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	介護福祉に関心を持ち、介護を必要としている人の気持ちに寄り添った援助ができるよう、主体的に取り組むとともに実践的な態度を身に付けている。	高齢者や障がい者など介護を必要とする人の生活における諸問題の解決に向けて思考を深め、基礎的な知識と技術をもとに、福祉に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	介護を実践する際に必要な尊厳の保持や自立支援の観点に立った基礎的・基本的な技術を身に付け、根拠にもとづいてその技術を適切に活用している。	介護を必要とする人を生活の観点からとらえた基礎的・基本的な知識を身に付け、高齢者や障がい者の尊厳保持や自立支援による介護の基本を理解している。
評価方法	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・発表	・定期考査 ・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・発表	・グループワーク ・ワークシート ・発表	・定期考査 ・小テスト ・ワークシート ・発表
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	介護職員初任者研修課程	【介護職員初任者研修課程】 1 職務の理解 ①多様なサービスの理解 ②介護職の仕事内容や働く現場の理解	○	○	○	○	a:介護職の仕事について関心をもち、介護職の魅力について探究しようとしている。 b: 利用者の心身状況や環境、ニーズに応じた介護サービスを考察し、適切に提案することができる。 c: 多様な介護サービスについて様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:高齢者の生活を支えるサービスについて理解している。	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・発表 ・定期考査 ・小テスト
		2 介護における尊厳の保持・自立支援 ①人権と尊厳を支える介護 ②自立に向けた介護	○	○	○	○	a:個人の尊厳のある生活について興味や関心を持ち、個人の潜在能力を活かした介護について探究しようとしている。 b:利用者の心身状況や環境、ニーズに応じた自立支援を考察し、適切に提案することができる。 c: 個人の尊厳について様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:尊厳を支える介護の視点として、アドボカシーやエンパワメントについて理解している。	
		3 介護の基本 ①介護の役割、専門性と多職種との連携 ②介護職の職業倫理	○	○	○	○	a:介護職の仕事について興味や関心を持ち、専門職としての社会的な役割について探究しようとしている。 b:介護職と他の専門職について考察し、チームケアの重要性について適切に提案することができる。 c:チームケアの好事例について様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:介護職の職業倫理について理解している。	

※令和３年度以前入学生用

		③介護における安全の確保とリスクマネジメント ④介護職の安全	○	○	○	○	a:介護現場の安全について関心を持ち、事故予防や安全対策について探究しようとしている。 b:介護におけるリスクについて考察し、利用者、介護職、環境の３つの視点から適切に提案することができる。 c: 介護現場の安全対策について様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:介護に関するリスクマネジメントについて理解している。	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・発表 ・定期考査 ・小テスト
		4 介護・福祉サービスの理解と医療の連携 ①介護保険制度 ②医療との連携とリハビリテーション	○	○	○	○	a:介護保険制度について、関心を持ち、その意義と役割について探究しようとしている。 b:利用者の心身状況や環境、ニーズに応じた介護保険サービスや医療と連携したリハビリテーションを考察し、適切に提案することができる。 c: 介護保険制度や医療サービスについて様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:介護が必要な高齢者の生活を支える介護保険サービスの種類や医療との連携について理解している。	
		③障害者総合支援制度およびその他制度	○	○		○	a:障害者総合支援制度について関心を持ち、その意義と役割について探究しようとしている。 b:障がいのある利用者の心身状況や環境、ニーズに応じた支援サービスを考察し、適切に提案することができる。 c:障害者総合支援法について様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:障がいのある利用者を支える障害者総合支援法に関するサービスについて理解している。	

※令和３年度以前入学生用

2学期		【介護職員初任者研修課程】 2 介護における尊厳の保持･自立支援 ③人権啓発に係る基礎意識	○	○		○	a:介護サービス利用者の人権について関心をもち、介護職員として求められる権利擁護について探究しようとしている。 b:介護サービス利用者の人権尊重に向けた介護サービスを考察し、具体的な実践方法を提案できる。 c:人権について、様々な資料や情報を収集し、人権を尊重する社会の実現に向けて、適切に活用している。 d:介護職員として求められる権利擁護や人権に関する基本的な知識を理解している。	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ･発表 ･定期考査 ･小テスト
	第4編 介護福祉の担い手	第1章 介護従事者をとりまく状況 1 介護福祉士の養成 2 介護人材の確保と定着 3 介護従事者のキャリアアップ研修 4 介護従事者の社会的地位向上	○	○	○ ○	○	a: 介護人材の不足について関心をもち、介護人材の確保について探究しようとしている。 b:介護をとりまく歴史的変化について多面的に考察し、超高齢社会を支える介護人材のあり方について適切に提案することができる。 c:介護従事者の社会的地位向上に向けた取り組みについて様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:社会福祉士及び介護福祉士法やその背景について理解している。	
		第2章 介護従事者の役割 1 介護の役割、介護福祉士の役割 2 在宅介護従事者の役割 3 施設介護従事者の役割	○	○ ○	○	○ ○	a:介護従事者の役割と専門性について関心をもち、求められる介護福祉士像に向けて探究しようとしている。 b:介護福祉士の仕事内容について多面的に考察し、在宅と施設での介護福祉士の役割について適切に表現できる。 c:介護福祉士の仕事内容について様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d: 在宅や施設における介護従事者の役割を理解している。	

※令和３年度以前入学生用

	第5編 介護福祉サービスの概要と連携	第１章 介護サービスの概要 1 介護サービスの利用方法 2 介護サービス提供の場の特性(在宅) 3 居宅介護サービス(福祉系) 4 居宅介護サービス(医療系) 5 介護サービス提供の場の特性(施設) 6 施設サービス 7 障がい者支援サービス 8 障がい者支援サービスの実際	○ ○	 ○ ○ ○ ○	 ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○	a:介護保険制度や障害者総合支援法について関心を持ち、その意義と役割について探究しようとしている。 b:利用者の心身状況や環境、ニーズに応じた高齢者や障がい者のサービスを考察し、適切に提案することができる。 c: 介護保険制度や障害者総合支援法について様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:介護保険制度や障害者総合支援法のしくみやサービスの種類について理解している。	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・発表 ・定期考査 ・小テスト
		第2章 介護における連携 1 多職種連携とチームケア 2 介護と医療 3 介護支援専門員とケアチームの連携 4 介護従事者とボランティアとの連携	 ○	 ○ 	 ○ ○ ○ 	 ○ 	a:超高齢社会における地域包括ケアについて関心をもち、地域住民の一員として主体的に探究しようとしている。 b:介護現場におけるチームケアについて多面的に考察し、利用者を支えるより良い介護に向けて表現できる。 c:医療、保健、福祉の各専門職の仕事内容について様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:医療、保健、福祉の各専門職の役割と連携の必要性について理解している。	
3学期	第6章 介護における安全確保と危機管理	第1章 介護における安全確保と事故対策 1 介護におけるリスクマネジメント 2 事故予防対策 3 転倒・転落事故 4 身体拘束の禁止について 5 防災対策	 ○ 	 ○ ○ ○	 ○ ○	 	a:介護現場の安全・安心について関心を持ち、事故予防や安全対策について探究しようとしている。 b:介護現場で起きやすい事故について多面的に考察し、介護現場の安全対策について表現できる。 c:介護現場における好事例について様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:身体拘束禁止対象となる行為や介護施設における防災対策について理解している。	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・発表 ・定期考査 ・小テスト

※令和３年度以前入学生用

		第2章　感染対策 1　感染症の理解 2　感染症の予防対策 3　介護現場で出会うことの多い感染症	○	○	○	○ ○	a:感染症について関心を持ち、介護現場における感染症予防対策について探究しようとしている。 b:介護現場で起きやすい感染症について多面的に考察し、介護従事者や利用者の感染予防対策について表現できる。 c:介護現場における好事例について様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:介護現場で出会うことの多い感染症の種類と症状、感染対策について理解している。	
		第3章　介護従事者の健康管理 1　健康管理の重要性 2　心の健康管理 3　からだの健康管理 4　労働安全衛生に関する知識 5　家族介護者の健康	○	○ ○	○ ○	○	a:介護従事者の健康管理について関心を持ち、心とからだの健康管理について探究しようとしている。 b:介護従事者の健康管理について多面的に考察し、介護従事者の心とからだの健康管理について提案できる。 c:心とからだの健康について様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:労働安全衛生に関する基本的な知識について理解している。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※令和３年度以前入学生用

教科	福祉	科目	コミュニケーション技術	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	「コミュニケーション技術」　（実教出版）						
副教材等	「介護職員初任者研修テキスト」（ＱＯＬサービス） 「見て覚える介護福祉士国試ナビ」（中央法規）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

対人援助で必要なコミュニケーションに関する基礎的な知識や技術を学び、施設実習やボランティア活動を通じて実践力を高めていきます。２年生では、高齢者や障がい者、その家族など具体的な介護場面を想定したコミュニケーション方法について検討し、介護福祉士として必要な専門性を身に付けます。

①相手（利用者）の気持ちを理解するためのコミュニケーション方法について、興味や関心を持って授業に取り組み、グループワークや発表など、積極的に参加しましょう。

②２年福祉科目の授業のなかで介護職員初任者研修課程を実施し、資格取得をめざします。

③国家資格である介護福祉士の受験資格を取得するために必要な科目です。

2　学習の到達目標

コミュニケーションに関する基礎的な知識と技術を習得させ、介護福祉援助活動で活用する能力と態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	対人援助におけるコミュニケーションに関心を持ち、介護を必要とする人の気持ちに寄り添って主体的にコミュニケーションを図るための実践的な態度を身に付けている。	高齢者や障がい者など介護を必要とする人との信頼関係の構築をめざして思考を深め、基礎的な知識と技術をもとに、福祉に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	介護を実践する際に必要なコミュニケーションの基礎的な技術を身に付け、根拠にもとづいてその技術を適切に活用している。	対人援助におけるコミュニケーションについて理解し、高齢者や障がい者などのサービス利用者に応じたコミュニケーションの基本を理解している。
価方法	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・発表	・定期考査 ・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・発表	・ワークシート ・発表	・定期考査 ・小テスト ・ワークシート
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	介護職員初任者研修課程	【介護職員初任者研修課程】 5 介護におけるコミュニケーション技術 ①介護におけるコミュニケーション ②介護におけるチームのコミュニケーション	○ ○	○	○	○ ○	a:対人援助におけるコミュニケーションに関心を持ち、介護を必要とする人の気持ちに寄り添ってコミュニケーションを図るための実践的な態度を身に付けている。 b: 利用者の心身状況に応じたコミュニケーション方法を考察し、適切に提案することができる。 c:介護をチームで支えるよりよいコミュニケーション方法について様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:対人援助におけるコミュニケーションやチームにおけるコミュニケーションの基本を理解している。	・定期考査 ・学習状況の観察 ・ワークシート
2学期	第2編　サービス利用者や家族とのコミュニケーション	第2編　サービス利用者や家族のコミュニケーション 第1章　サービス利用者や家族との関係づくり 1　利用者や家族との関係づくり 2　家族への支援	○ ○	○	○	○ ○	a:サービス利用者や家族に関心を持ち、介護を必要とする人とその家族の気持ちに寄り添って、主体的にコミュニケーションを図るための実践的な態度を身に付けている。 b:サービス利用者やその家族との信頼関係の構築をめざして思考を深め、基礎的な知識と技術をもとに、適切に提案することができる。 c:サービス利用者や家族との関係づくりにおいて必要な技術を身に付け、根拠にもとづいてその技術を適切に活用している。 d:サービス利用者や家族に応じたコミュニケーションの基本的な知識を理解している。	・定期考査 ・学習状況の観察 ・ワークシート ・発表 ・グループワーク

※令和３年度以前入学生用

	第2編　サービス利用者や家族とのコミュニケーション	第2章　サービス利用者に応じたコミュニケーション 1　高齢者とのコミュニケーション 2　障がいとコミュニケーション	○ ○	○ ○	○	○ ○	a:高齢者と障がい者とのコミュニケーションについて関心をもち、老化や障がいに応じたコミュニケーション方法を探究しようとしている。 b:　高齢者や障がい者の心身状況に応じたよりよいコミュニケーション方法を考察し、適切に提案することができる。 c:　多様なコミュニケーション方法について様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:高齢者や障がい者のコミュニケーションの基本的な姿勢や方法を理解している。	・定期考査 ・小テスト ・学習状況の観察 ・ワークシート ・発表
		3　視覚障がいのある人とのコミュニケーション 4　聴覚障がいのある人とのコミュニケーション 5　言語障がいのある人とのコミュニケーション 6　運動機能障がいのある人とのコミュニケーション 7　知的障がいのある人とのコミュニケーション 8　認知症のある人とのコミュニケーション	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	 ○ ○	○ ○ ○ ○	a:具体的な障がい(視覚・聴覚・言語・運動機能など）に応じたコミュニケーション方法に関心を持ち、当事者の気持ちに寄り添って主体的にコミュニケーションを図るための実践的な態度を身に付けている。 b:具体的な障がい(視覚・聴覚・言語・運動機能など）に応じたよりよいコミュニケーション方法を考察し、適切に提案することができる。 c:　具体的な障がい（視覚・聴覚・言語・運動機能など）に応じた多様なコミュニケーション方法について様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:具体的な障がい(視覚・聴覚・言語・運動機能など）者とのコミュニケーションについて、特性に応じたコミュニケーションの基本を理解している。	

※令和３年度以前入学生用

3学期	第3編　介護におけるチームのコミュニケーション	第3編　介護におけるチームのコミュニケーション 第1章　記録 1　記録の意義と目的 2　記録の種類 3　記録の方法と管理 4　振り返り	○ ○	○ ○	 ○ ○	○ ○ ○ ○	a:介護現場における記録について関心をもち、効果的な記録の仕方と活用方法について探究しようとしている。 b:　介護現場における記録の重要性について考察し、適切に提案することができる。 c:介護現場における記録の種類について資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:　介護現場における記録の意義と目的、種類、方法と管理について理解している。	・学習状況の観察 ・学習プリント ・発表 ・定期考査 ・ワークシート
	介護におけるチームのコミュニケーション	第2章　チームによる連携 1　チームのコミュニケーション 2　情報の共有化 3　会議による情報の共有化	○	○	 ○	○ ○ ○	a:介護現場におけるチームケアについて関心を持ち、情報の共有やチームによるコミュニケーションを図るための実践的な態度を身に付けている。 b:　介護現場におけるチームケアでの連携の重要性について考察し、適切に提案することができる。 c:介護現場におけるチームケアの事例について資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:介護現場におけるチームの情報の共有方法について、基本を理解している。	
	介護におけるチームのコミュニケーション	第3章　スーパービジョンの技法 1　スーパービジョンとは 2　スーパービジョンの方法	 ○ ○	 ○	 ○	 ○ ○	a:介護従事者としての自己成長について関心を持ち、効果的なスーパービジョンについて探究しようとしている。 b:　効果的なスーパービジョンについて考察し、適切に提案することができる。 c:介護現場におけるスーパービジョンの事例について資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:　スーパービジョンの必要性と機能について理解している。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:技能　　d:知識・理解

※令和３年度以前入学生用

教科	福祉	科目	こころとからだの理解	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「こころとからだの理解」（実教出版）						
副教材等	「介護職員初任者研修テキスト」（ＱＯＬサービス） 「見て覚える介護福祉士国試ナビ」（中央法規）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

介護を実践する際に必要な「こころとからだのしくみ」について勉強をしていきます。２年生では、特に認知症の医学的知識について学び、認知症の方の心理・行動面について理解を深め、ケアのあり方を考えることで介護福祉士として必要な専門性を身に付けます。
①人間の「こころのしくみ」や「からだのしくみ」に興味や関心を持って授業に取り組み、グループワークや発表など、積極的に参加しましょう。
②２年福祉科目の授業のなかで介護職員初任者研修課程を実施し、資格取得をめざします。
③国家資格である介護福祉士の受験資格を取得するために必要な科目です。

2　学習の到達目標

自立生活を支援するために必要なこころとからだの基礎的な知識を習得させ、介護実践に適切に活用できる能力を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	人間の「こころのしくみ」や「からだのしくみ」について関心をもち、介護を必要としている人の気持ちに寄り添った援助ができるよう、主体的に取り組むとともに実践的な態度を身に付けている。	高齢者や障がい者などに多く見られる疾病や機能低下が及ぼす日常生活での諸課題の解決をめざして思考を深め、基礎的な知識と技術をもとに、適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	介護を実践する際に必要なこころとからだについての基礎的・基本的な技術を身に付け、根拠にもとづいてその技術を適切に活用している。	人間の「こころのしくみ」や「からだのしくみ」に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、高齢者や障がい者の尊厳を守る介護の基本を理解している。
評価方法	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・学習プリント ・発表	・定期考査 ・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・学習プリント ・発表	・実技演習 ・グループワーク ・ワークシート ・学習プリント ・発表	・定期考査 ・小テスト ・ワークシート ・学習プリント ・発表

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	介護職員初任者研修課程	【介護職員初任者研修課程】 9 こころとからだのしくみと生活支援技術 ア　基本知識の学習 ②介護に関するこころのしくみの基礎的理解 イ　生活支援技術の講義・演習 ⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	○ ○ ○	 ○ ○	 ○ ○	 ○ ○ ○	a:介護を必要とする人の気持ちに寄り添って安全に食事や排泄介助を実践できる態度を身に付けている。 b:利用者の方の尊厳を保持した食事や排泄介助における自立支援方法について、利用者の方の状態や状況に応じた根拠に基づいた支援内容を考察し、表現することができる。 c:　食事や排泄介助に関する利用者の方の尊厳を保持した自立支援の方法、潜在的能力を引き出す支援を行うために必要な基本的知識を身に付け、その技術を適切に活用している。 d:食事や排泄介助に関する利用者の方の尊厳を保持した自立支援の方法、潜在的能力を引き出す支援を行うために必要な基本的知識を理解している。	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・定期考査 ・小テスト
2学期	第4編　認知症の理解	第2章　認知症の基礎的理解 1　認知症による症状 2　認知症の診断 3　認知症の主な病気の特徴 4　若年性認知症 5　認知症の薬物療法	 ○	 ○ ○ ○	 ○	 ○ ○	a:認知症について関心をもち、共感的な理解のもと、認知症の症状を探究しようとしている。 b:認知症を理解するために思考を深め判断し、中核症状と周辺症状の違いについて適切に表現している。 c:若年性認知症や認知症の薬物療法に関する様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:認知症の原因となる主な病気とその特徴ついて理解している。	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・定期考査 ・小テスト

※令和３年度以前入学生用

		3章　認知症に伴う心身の変化と日常 1　認知症の人の特徴的な行動・心理 2　認知症に伴う機能の変化と日常生活					a:認知症について関心をもち、共感的な理解のもと、認知症の方に対するよりよい支援方法について探究しようとしている。 b:認知症を理解するために思考を深め判断し、特徴的な行動障がいと心理的要因について適切に表現している。 c:認知症の方の日常生活への影響に関する様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:認知症の行動・心理症状（ＢＰＳＤ）について理解している。	
		第4章　認知症と地域サポート 1　地域におけるサポート体制 2　家族への支援	○	○	○	○	a:地域におけるサポート体制について関心をもち、家族に対するよりよい支援方法について探求しようとしている。 b:認知症高齢者の家族の気持ちを理解するために思考を深め判断し、心理的な変化について適切に表現している。 c:認知症高齢者の家族を支援する地域のサポート体制について様々資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:家族に対する地域のサポート体制について理解している。	
		第1章　認知症をとりまく環境 1　認知症介護の歴史と理念 2　認知症高齢者の現状と今後 3　認知症に関する行政の方針と施策	○ ○	○	○	○	a:認知症の歴史について関心をもち、超高齢社会を迎えた認知症介護の在り方について探究しようとしている。 b:認知症介護の今後の在り方に思考を深め判断し、行政の施策と地域住民の関わり方について適切に表現している。 c:認知症高齢者の現状に関する様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:認知症ケアの理念としてパーソンセンタードケアについて理解している。	

※令和３年度以前入学生用

3学期	第2編　生活支援に必要なこころとからだのしくみの理	第2編　生活支援に関する必要なこころとからだの仕組みの理解 第1章　生活動作に関するこころとからだのしくみ 6　睡眠に関するこころとからだのしくみ					a:人間が生きていくうえでの睡眠について関心をもち、良眠をもたらす支援方法について探究しようとしている。 b:加齢に伴う睡眠の変化について思考を深め、良眠をもたらす支援方法を適切に表現している。 c:加齢に伴う睡眠の変化について資料や情報を収集し適切に活用している。 d:睡眠の意義としくみ、睡眠障がいの種類と症状および対応方法について理解している。	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・定期考査 ・小テスト
	第3編　人間の成長と発達の基本的理解	第3編　人間の成長と発達の基礎的理解 第1章　発達とは 1　発達と老化の理解 2　人間の発達と発達課題	○	○	○	○ ○	a:人間の発達と老化について関心をもち、自らの成長を振り返って探究しようとしている。 b:人間の発達段階に思考を深め判断し、その発達課題について適切に表現している。 c:人間の発達段階に関する様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:人間の発達段階と発達課題について理解している。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※令和３年度以前入学生用

教科	福祉	科目	生活支援技術 （分野：生活支援技術）	単位数	４単位	年次	２年次
使用教科書	「生活支援技術」　（実教出版）						
副教材等	「介護職員初任者研修テキスト」（ＱＯＬサービス） 「見て覚える介護福祉士国試ナビ」（中央法規）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

介護を必要とする人の自立した生活を支援するための安心・安全な介護技術を学び、施設実習やボランティア活動を通じて実践力を高めていきます。２年生では、食事、入浴、排せつ、移動、衣服着脱などの介護技術を学ぶことで、介護福祉士として必要な基本的な介護技術、知識を育みます。

①介護を必要とする人の生活場面に応じた介護技術の方法について興味や関心を持って授業に取り組み、介護技術の演習やグループワークなど、積極的に参加しましょう。

②２年福祉科目の授業のなかで介護職員初任者研修課程を実施し、資格取得をめざします。

③国家資格である介護福祉士の受験資格を取得するために必要な科目です。

2　学習の到達目標

自立を尊重した生活を支援するための介護の役割を理解させ、基礎的な介護の知識と技術を習得させるとともに、様々な介護場面において適切かつ安全に支援できる能力と態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	介護を必要とする人の生活場面に応じた介護技術の方法について関心を持ち、介護を必要としている人の気持ちに寄り添った援助ができるよう、主体的に取り組むとともに実践的な態度を身に付けている。	高齢者や障がい者など介護を必要とする人の生活における諸問題の解決に向けて思考を深め、基礎的な知識と技術をもとに、福祉に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	介護を実践する際に必要な尊厳の保持や自立支援の観点に立った基礎的・基本的な技術を身に付け、根拠にもとづいて安全に支援できる技術を適切に活用している。	介護を必要とする人を生活の観点からとらえた基礎的・基本的な知識を身に付け、高齢者や障がい者の尊厳保持や自立支援による適切かつ安全な介護の基本を理解している。
評価方法	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート	・定期考査 ・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・発表	・実技テスト ・実技演習 ・グループワーク ・ワークシート	・定期考査 ・小テスト ・ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	介護職員初任者研修課程	【介護職員初任者研修課程】 9 こころとからだのしくみと生活支援技術 ア　基本知識の学習 ①介護の基本的な考え方 ③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	○	○	○	○	a:生活を支援する介護の８つの視点について関心をもち、より良い介護に向けて利用者へのアプローチの方法を探究しようとしている。 b: 利用者の心身状況や環境、ニーズに応じた利用者へのアプローチの方法を考察し、適切に提案することができる。 c: 利用者に応じて多様なアプローチの仕方について様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:人間のからだに関する基本的な知識とボディメカニクスの活用について理解している。	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・定期考査
		イ 生活支援技術の講義・演習 ④生活と家事 ⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑨入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	a:介護を必要とする人の気持ちに寄り添って安全に介護を実践できる態度を身に付けている。 b:利用者の方の尊厳を保持した自立支援方法について、利用者の方の状態や状況に応じた根拠に基づいた支援内容を考察し、表現することができる。 c: 利用者の方の尊厳を保持した自立支援の方法、潜在的能力を引き出す支援を行うために必要な基本的知識を身に付け、その技術を適切に活用している。 d:利用者の方の尊厳を保持した自立支援の方法、潜在的能力を引き出す支援を行うために必要な基本的知識を理解している。	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・発表 ・実技演習 ・定期考査

※令和３年度以前入学生用

2学期	介護職員初任者研修課程	【介護職員初任者研修課程】 9 こころとからだのしくみと生活支援技術 イ 生活支援技術の講義・演習 ⑫死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護			○	○	a: 人の死に対して関心を持ち、その人らしく生きられるよう支援するために、相手の立場に立ったターミナルケアを実践できる態度を身に付けている。 b: 終末期において、利用者の方の生活習慣や価値観などの個別性を尊重した支援を考察し、表現することができる。 c:最期までその人らしく生きられるよう支援するための介護に関する技術を身に付け、家族への支援、在宅・施設ターミナルケアでの医療との連携における事例において、その技術を適切に活用している。 d:尊厳を保持した終末期の介護や利用者の身体状況、精神状態の変化について理解している。	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・定期考査
	自立に向けた生活支援技術	第2編 自立に向けた生活支援技術 第5章 食事の支援 1 食事の意義と目的 2 食事における介護技術	○	○	○	○	a:食事介護に必要な知識・技術だけではなく、食事における危険性にも関心を持ち、安全に介護を実践できる態度を身に付けている。 b: 身体機能の低下や咀嚼・嚥下障がい、感覚障がい、認知障がいなどの食事介護を必要とする方の状態や状況に応じた支援内容について考察し、表現することができる。 c:身体機能の低下や咀嚼・嚥下障がい、感覚障がい、認知障がいなどの食事介護を必要とする方の状態や状況に応じた支援内容について、適切な技術を活用している。 d:食事の意義や目的、食事介助を行うためのアセスメントの視点と介助方法の留意点を理解している。	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・発表 ・実技演習 ・定期考査

※令和３年度以前入学生用

		第7章　排泄の支援 1　自立生活を支える排泄介護 2　排泄における介護技術		○	○	○	a:人間にとっての排泄の意義と目的に関心を持ち、自立に向けた排泄支援を実践できる態度を身に付けている。 b:プライバシーの保護や尊厳の保持に配慮した排泄の介護を考察し、利用者の方が安心できる排泄行為を支える介護について提案することができる。 c:利用者の方の状態や状況に応じた排泄に関する適切な対応についての知識を踏まえ、おむつ交換の実技を通じて、自立に向けた排泄の支援方法を身に付けている。 d:排泄の意義や目的について理解させるとともに、排泄を促すための介助に必要な介護従事者としての留意点を理解している。	
3学期	自立に向けた生活支援技術	第6章　入浴・清潔保持の支援 1　生活を支える入浴・清潔保持の介護 2　入浴・清潔保持における介護技術	○	○	○	○	a:入浴・清潔保持の意義や作用に関心を持ち、入浴の楽しみを支える介護を実践できる態度を身に付けている。 b:日常の観察の必要性や入浴に伴う事故の予防と安全な浴室環境の整備について考察し、事故時の対応について提案することができる。 c:入浴・清潔保持の基礎的な知識を踏まえ、プライバシーに配慮した安全で安楽な方法や自立に向けた介護技術を身に付けている。 d:清潔行為の意義と方法について理解し、各疾患や障がいについての知識を持ち、それぞれの介護方法につなげることができる。	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・発表 ・定期考査

※令和３年度以前入学生用

		第8章　睡眠･休養の支援 1　睡眠の意義と目的 2　睡眠における介護技術		 ○	 ○	 ○	a:安眠を促すための介護に関心を持ち、自身の日頃の睡眠の状況と関連させながら自立に向けた睡眠の支援を実践できる態度を身に付けている。 b:睡眠におけるアセスメントの必要性と観察のポイントを踏まえ考察し、安眠を促すための介護について表現することができる。 c:安眠を促すための介助に必要な介護従事者としての留意点を踏まえ、安眠のための介助方法を習得している。 d:睡眠の意義と睡眠のリズム、安眠を促すための環境とその調整方法を理解している。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※令和３年度以前入学生用

教科	福祉	科目	生活支援技術 （分野：医療的ケア）	単位数	４単位	年次	２年次
使用教科書	「生活支援技術」　（実教出版）						
副教材等	「改訂介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト」（実教出版） 「見て覚える介護福祉士国試ナビ」（中央法規）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

医療的ケアを必要とする人の自立した生活を支援するための安心・安全な医療的ケアを学びます。２年生では、医療的ケアを必要とする利用者に安全で的確な喀痰吸引、経管栄養、医療職との連携などの基本的な知識や技術を身に付けます。

①医療的ケアを必要とする人やその医療的ケアの方法について興味や関心を持って授業に取り組み、医療的ケアの演習やグループワークなど、積極的に参加しましょう。

②国家資格である介護福祉士の受験資格を取得するために必要な科目です。

2　学習の到達目標

自立を尊重した生活を支援するための介護の役割を理解させ、基礎的な介護の知識と技術を習得させるとともに、様々な介護場面において適切かつ安全に支援できる能力と態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	医療的ケアを必要とする人やその医療的ケアの方法について関心を持ち、医療を必要としている人の気持ちに寄り添った援助ができるよう、主体的に取り組むとともに実践的な態度を身に付けている。	高齢者や障がい者など医療的ケアを必要とする人の生活における諸問題の解決に向けて思考を深め、基礎的な知識と技術をもとに、専門職として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	医療的ケアを実践する際に必要な尊厳の保持の視点のもと基礎的・基本的な技術を身に付け、根拠にもとづいて安全に提供できる技術を適切に活用している。	医療的ケアを必要とする人を生活の観点からとらえた基礎的・基本的な知識を身に付け、高齢者や障がい者の尊厳を保持した適切かつ安全な医療的ケアの基本を理解している。
評価方法	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・発表	・定期考査 ・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・発表	・実技テスト ・グループワーク ・ワークシート ・発表	・定期考査 ・小テスト ・ワークシート
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
2学期	第Ⅰ部　総論	第Ⅰ部総論 第1章　人間と社会 1　介護職員と医療的ケア 2　介護福祉士等が喀痰吸引等を行うことに係る制度	○	○	○	○	a:医療を提供する介護職員としての基本的な考え方について探究しようとしている。 b:　医療行為をするうえで、介護職員にとって重要なことについて思考を深め、適切に表現している。 c:介護職員が医療的行為を行うに至った背景に関する様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:介護福祉士等が喀痰吸引等をできる要件や行為について理解している。	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・定期考査 ・確認テスト
		第2章　保健医療制度とチーム医療 1　保健医療に関する制度 2　医療的行為に関する法律 3　チーム医療と介護職員との連携	○	○	○ ○	○	a:喀痰吸引と経管栄養についての医師・看護職員と介護職員の連携の重要性について探究しようとしている。 b:喀痰吸引と経管栄養について医師・看護職員と介護職員の連携方法について思考を深め、適切に表現している。 c:医療的行為に関する法律や様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:医行為と医療的行為の関係性について理解している。	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・定期考査 ・確認テスト

※令和３年度以前入学生用

		第3章　安全な療養生活 1　喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 2　救急蘇生法	 ○	 ○	 ○	 ○	a:喀痰吸引や経験栄養の安全な実施や救急蘇生法について探究しようとしている。 b:喀痰吸引や経管栄養のリスクマネジメントについて思考を深め、適切に表現している。 c: ヒヤリハットやアクシデントに関する様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:喀痰吸引や経管栄養におけるヒヤリハットやアクシデントとはどのようなものがあるか理解している。	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・実技演習 ・実技テスト ・定期考査
		第4章　清潔保持と感染予防 1　感染予防 2　職員の感染予防 3　療養環境の清潔、消毒法 4　滅菌と消毒	 ○	 ○ ○	 ○	 ○ ○	a:介護職員としてできる感染予防策について探究しようとしている。 b:居室、トイレ、キッチンの清潔を保つ方法について思考を深め、適切に表現している。 c:排泄物や吐しゃ物、血液や体液の処理に関する様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:介護現場における標準予防策（スタンダード・プリコーション）について理解している。	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・定期考査 ・確認テスト
		第5章　健康状態の把握 1　身体・精神の健康 2　健康状態を知る項目 3　急変状態について	 ○ ○	 ○ ○	 ○	 ○	a:利用者の観察やバイタルサインなど健康状態を知る方法について探究しようとしている。 b:健康状態の平常時と異常時の違いについて思考を深め、適切に表現している。 c:急変時の対応と事前準備に関する様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:バイタルサイン（体温、呼吸、脈拍、血圧）について理解している。	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・定期考査 ・確認テスト

※令和３年度以前入学生用

3学期		第Ⅱ部　高齢者および障がい児・者の喀痰吸引 第1章　高齢者および障がい者の喀痰吸引概論 1　呼吸のしくみとはたらき 2　いつもと違う呼吸法 3　喀痰吸引とは 4　人工呼吸器と吸引 5　子どもの吸引について 6　吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 7　呼吸器系の感染と予防（吸引に関して） 8　喀痰吸引による危険、事後の安全確認 9　急変・事故発生時の対応と事前対策	○	○ ○ ○	○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a:吸引を利用する当事者や家族の気持ちやその気持ちに寄り添った対応について探究しようとしている。 b:人工呼吸器のしくみと生活支援における留意点について思考を深め、適切に表現している。 c:喀痰吸引により生じる主な危険の種類や危険防止に関する様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:呼吸のしくみや人工呼吸器のしくみについて理解している。	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・定期考査 ・確認テスト
		第2章　高齢者および障がい児・者の喀痰吸引実施手順解説 1　喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持 2　吸引の技術と留意点 3　喀痰吸引にともなうケア 4　報告および記録	○	○ ○	○	○ ○	a:　喀痰吸引実施にともなう利用者の身体変化（バイタルサイン・呼吸状態・顔色など）について、探究しようとしている。 b:喀痰吸引にともなうケア（たんを出しやすくするケア、体位を整えるケア、口腔内のケア）について思考を深め、適切に表現している。 c:喀痰吸引に関する報告と記録について様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:・吸引で用いる器具や器材のしくみや清潔保持の方法について理解している。 ・吸引の実施手順と吸引中の留意点を理解している。	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※令和３年度以前入学生用

教科	福祉	科目	介護過程	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「介護過程」（実教出版）						
副教材等	「介護職員初任者研修テキスト」（ＱＯＬサービス） 「見て覚える介護福祉士国試ナビ」（中央法規）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

サービス利用者一人ひとりが自立した心豊かな生活が送れるよう支援するための介護過程について学び、施設実習を通じて実践力を高めていきます。２年生では、主に介護過程の一連の流れを学ぶことで、介護福祉士として必要な基本的な介護技術、知識を身に付けます。

①サービス利用者主体の介護過程の展開に興味や関心を持って授業に取り組み、グループワークや発表など、積極的に参加しましょう。

②２年福祉科目の授業のなかで介護職員初任者研修課程を実施し、資格取得をめざします。

③国家資格である介護福祉士の受験資格を取得するために必要な科目です。

2　学習の到達目標

人間としての尊厳の保持と自立生活支援の観点から介護過程の意義と役割を理解し、介護過程が展開できる能力と態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	サービス利用者主体の介護過程の展開について関心をもち、介護を必要としている人の気持ちに寄り添った援助ができるよう、主体的に取り組むとともに実践的な態度を身に付けている。	高齢者や障がい者などに多く見られる疾病や機能低下が及ぼす日常生活における諸課題の解決をめざして思考を深め、基礎的な知識と技術をもとに、適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	サービス利用者に応じたよりよい介護の提供のために必要な介護過程の基礎的・基本的な技術を身に付け、根拠にもとづいてその技術を適切に活用している。	サービス利用者に応じた介護過程の展開に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、高齢者や障がい者の尊厳の保持や自立生活支援の基本に立った介護過程の意義と役割を理解している。
評価方法	・学習状況の観察 ・介護計画の作成 ・グループワーク ・ワークシート ・発表	・定期考査 ・介護計画の作成 ・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・発表	・介護計画の作成 ・ワークシート ・発表	・定期考査 ・小テスト ・介護計画の作成 ・ワークシート ・発表
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	介護職員初任者研修課程	【介護職員初任者研修課程】 6　老化の理解 ①老化に伴うこころとからだの変化と日常 ②高齢者と健康	○	○	○	○	a:高齢者の介護計画を作成するにあたり、高齢者の健康について関心をもち、老化に伴うこころとからだの変化について探究しようとしている。 b:老化に伴うこころやからだの変化について思考を深め、適切に表現している。 c:高齢者にみられる疾患に関する様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:高齢者によくみられる疾患や症状について理解している。	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・発表 ・定期考査 ・小テスト
		7　認知症の理解 ①認知症を取り巻く状況 ②医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理	○	○	○	○	a:認知症利用者の介護計画を作成するにあたり、認知症について興味や関心をもち、認知症ケアの理念について探究しようとしている。 b:認知症利用者の気持ちへの思考を深め、ケアの視点について、適切に表現している。 c:認知症の原因疾患について、様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:認知症に関する４つの疾患について基本的な知識を理解している。	
		③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 ④家族への支援	○	○	○	○	a:認知症に伴うこころとからだの変化に関心をもち、日常生活の課題について探究しようとしている。 b. 認知症利用者の家族の気持への思考を深め、援助方法を適切に表現している。 c:認知症の周辺症状について様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:認知症の中核症状や周辺症状について、基本的な知識を理解している。	

※令和３年度以前入学生用

2学期	介護職員初任者研修課程	【介護職員初任者研修課程】 9 こころとからだのしくみと生活支援技術 ⑬介護過程の基礎的理解 ⑭総合生活支援技術演習	○	○	○	○	a:利用者の生きがいをもてる生活について興味や関心をもち、介護過程の意義や目的について探究しようとしている。 b: 事例問題を通じて、利用者の気持ちに寄り添って思考を深め、その利用者のニーズを適切に表現している。 c:事例問題から、その利用者の様々な情報を読み取り、適切に分析することができる。 d:介護過程の展開について、一連の流れを理解している。	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・介護計画の作成 ・定期考査 ・小テスト
		10 振り返り ①振り返り ②就業への備えと研修終了後における実例	○	○	○	○	a:介護福祉の専門職として、利用者主体の介護を実践しようとする態度を身に付けている。 b:根拠に基づいた介護を実践するにあたり、介護過程の重要性を適切に表現している。 c:振り返りを通じて、介護の専門職として必要な資質について、自らの課題を分析することができる。 d: 介護福祉の専門職として、必要な資質と専門的な知識や技術について理解している。	
	第1編 介護過程の意義と目的	第1編 介護過程の意義と目的 第1章 介護過程がめざすもの 1 生活支援と根拠に基づいた介護 2 介護過程の意義 3 介護過程の目的・基本視点	○	○	○	○	a:利用者の生活に興味や関心をもち、生活課題の解決に向けた介護過程の意義や目的について探究しようとしている。 b:根拠に基づいた介護の重要性について思考を深め、適切に表現している。 c:介護計画の好事例について、様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:介護過程の意義や目的、介護過程を展開するための基本的な視点を理解している。	

※令和３年度以前入学生用

	第2編　介護過程の展開	第2編　介護過程の展開 第1章　情報収集とアセスメント 1　アセスメント 2　情報収集 3　情報の解釈・関連づけ・統合化 4　課題の明確化 5　情報の記載の方法	○ ○	○	○	○	a:アセスメントを実施するにあたり、利用者の情報を収集するための視点や態度を身に付けている。 b:利用者の情報収集の方法について思考を深め、収集した情報を適切に解釈、関連づけ、統合化することができる。 c:利用者の情報を収集し、情報の解釈、関連づけ、統合化することで、課題を明確化する技能が身に付いている。 d:アセスメントの一連の流れや情報の記載方法について理解している。	
		第2章　生活課題と目標の設定 1　目標の設定 2　目標の共有化	○	○	○	○	a:利用者の生活に興味や関心をもち、生きがいのある生活に向けた目標の設定について探究しようとしている。 b:　利用者の心身状況や環境、ニーズに応じた目標を考察し、適切に提案することができる。 c:利用者のニーズに応じた目標を設定するために、様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:目標設定の留意点について基本的な知識を理解している。	
3学期	第2編　介護過程の展開	第3章　介護計画の立案 1　介護計画の概要 2　個別介護計画の立案	○	○	○	○	a:利用者の生活に興味や関心をもち、生きがいのある生活に向けた個別介護計画の立案方法について探究しようとしている。 b:　利用者の心身状況や環境、ニーズに応じた個別介護計画について考察し、適切に提案することができる。 c:利用者のニーズに応じた個別介護計画を立案するために、様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:個別介護計画の立案に向けて、計画表の記入方法など基本的な知識を理解している。	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・介護計画の作成 ・定期考査 ・小テスト

※令和３年度以前入学生用

		第4章　介護計画の実施と評価 1　介護計画の実施 2　介護過程のモニタリング・評価	○	○	○	○ ○	a:介護計画の実施について関心をもち、効果的な介護計画になるための留意点について探究しようとしている。 b:　介護計画の評価結果について考察し、よりよい介護計画に向けて介護計画の変更・修正を提案することができる。 c:介護過程の評価方法について、様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:介護計画の実施、モニタリング、評価の意義や重要性について理解している。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※令和３年度以前入学生用

教科	福祉	科目	介護総合演習	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	なし						
副教材等	「介護職員初任者研修テキスト」（ＱＯＬサービス） 「見て覚える介護福祉士国試ナビ」（中央法規）　　介護実習日誌（自主教材）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

介護を必要とする人の自立した生活を支援するための安心・安全な介護技術を学び、施設実習やボランティア活動を通じて実践力を高めていきます。２年生では、食事、入浴、排せつ、移動、衣服着脱などの介護技術を学ぶことで、介護福祉士として必要な基本的な介護技術、知識を身につけます。

①グループホームや特別養護老人ホームなどの社会福祉施設での実習に向けて、興味や関心を持って授業に取り組み、グループワークや発表など、積極的に参加しましょう。

②２年福祉科目の授業のなかで介護職員初任者研修課程を実施し、資格取得をめざします。

③国家資格である介護福祉士の受験資格を取得するために必要な科目です。

2　学習の到達目標

介護演習や事例研究などの学習を通して、専門的な知識と技術の深化、統合を図るとともに、課題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	多様な介護現場での実習に向けて介護の仕事について関心を持ち、介護福祉士をめざして、主体的に取り組むとともに実践的な態度を身に付けている。	多様な介護現場での実習に向けて、基礎的な知識と技術を統合し、介護福祉士として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	多様な介護現場での実習に向けて、介護を実践する際に必要な尊厳の保持や自立支援の観点に立った基本的な知識と技術を統合し、根拠にもとづいて安全に支援できる技術を適切に活用している。	多様な介護現場での実習に向けて、基礎的・基本的な知識や技術を統合し、高齢者や障がい者の尊厳保持や自立支援による適切かつ安全な介護の基本を理解している。
評価方法	・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・発表	・定期考査 ・学習状況の観察 ・グループワーク ・ワークシート ・発表	・グループワーク ・ワークシート ・発表	・定期考査 ・小テスト ・ワークシート ・発表
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元(題材)の評価規準	評価方法
1学期	イ 介護職員初任者研修課程	Ⅰ【介護職員初任者研修課程】 8 障がいの理解 ①障がいの基礎的理解 ②障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 ③家族の心理、かかわり支援の理解	○	○ ○	○ ○	○	a:障がいに応じたよりよい支援について興味や関心を持ち、当事者や家族の気持ちに寄り添った支援方法を追求しようとしている。 b:障がいについて、当事者や家族の気持ちになって思考を深め、適切に表現している。 c: 障がいに関する医学的側面について様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:障がいに関する医学的側面、心理、行動について基本的な知識を理解している。	・学習状況の観察 ・ワークシート ・グループワーク ・発表 ・小テスト ・定期考査
		9 こころとからだのしくみと生活支援技術 イ 生活支援技術の講義・演習 ⑤快適な居住環境整備と介護		○		○	a:高齢者の居住環境について興味や関心を持ち、介護保険を活用した快適な居住環境を追求しようとしている。 b:快適な居住環境について、家族の気持ちになって思考を深め、適切に表現している。 c:家庭内に多い高齢者の事故について様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:介護保険を活用した住宅改修について基本的な知識を理解している。	
	ロ 春期施設実習に向けて	Ⅱ 春期施設実習に向けて 1 デイサービス・デイケアでの実習(6月)とは 2 実習ガイダンスに向けて 3 実習の諸注意・実習目標	○	○	○ ○	○ ○	a:６月の実習に向けて、主体的に実習目標を立てることができる。 b:６月の実習に向けて、自らが学習したい内容と関連付けて実習目標を考察し、表現することができる。 c:デイサービス・デイケアの概要について様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:デイサービス・デイケアの意義と役割を理解している。	

※令和３年度以前入学生用

	Ⅲ 夏期施設実習に向けて	Ⅲ 夏期施設実習に向けて 1 認知症高齢者とのコミュニケーションの図り方 2 グループホームでの実習(7月)とは 3 実習ガイダンスに向けて 4 実習の諸注意・実習目標	○	○	○ ○ ○	○ ○ ○	a:7月の実習に向けて、主体的に実習目標を立てることができる。 b:7月の実習に向けて、自らが学習したい内容と関連付けて実習目標を考察し、表現することができる。 c:グループホームや認知症高齢者のコミュニケーション方法について様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:グループホームの意義と役割、認知症高齢者の気持ちに寄り添ったコミュニケーション方法を理解している。	
2学期	Ⅳ 秋期施設実習に向けて	Ⅳ 秋期施設実習に向けて 1 特別養護老人ホーム・介護老人保健施設での実習(9月)とは 2 実習ガイダンスに向けて 3 実習の諸注意・実習目標	○	○	 ○ ○	 ○ ○	a:9月の実習に向けて、主体的に実習目標を立てることができる。 b:9月の実習に向けて、自らが学習したい内容と関連付けて実習目標を考察し、表現することができる。 c:特別養護老人ホーム等の概要について様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:特別養護老人ホーム等の意義と役割を理解している。	・学習状況の観察 ・ワークシート ・グループワーク ・発表 ・小テスト ・定期考査
	Ⅴ 夏期施設実習・秋期施設実習の振り返り	Ⅴ 夏期施設実習・秋期施設実習の振り返り 1 秋期施設実習 ピアスーパービジョンを活用した振り返り 2 秋期施設実習発表会	○	 ○	 ○	○	a:グループ活動を通じて主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 b:ピアスーパービジョンを通じて、特別養護老人ホームでの実習の経験を考察するとともに言語化し、発表することができる。 c:実習日誌を通じて、情報を収集し適切に活用している。 d:介護度が比較的重度な利用者に対する介護技術を理解している。	

※令和３年度以前入学生用

		3 夏期施設実習 ピアスーパービジョンを活用した振り返り	○			○	a:グループ活動を通じて主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 b:ピアスーパービジョンを通じて、グループホームでの実習の経験を考察するとともに言語化し、表現することができる。 c:実習日誌を通じて、情報を収集し適切に活用している。 d:認知症高齢者に対する介護技術を理解している。	
	Ⅳ 障がいの理解	Ⅵ 障がいの理解 1 障がいの理解 2 障がいのある子どもとのコミュニケーションの図り方 3 障がいのある子どもとの関わり方とは 4 児童発達支援センターとは	○	○ ○	○ ○	○ ○	a:障がいのある子どもに応じたよりよい支援について興味や関心を持ち、その子どもや家族の気持ちに寄り添った支援方法を追求しようとしている。 b:障がいについて、その子どもや家族の気持ちになって思考を深め、適切に表現している。 c: 障がいに関する医学的側面について様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。 d:障がいに関する医学的側面、心理、行動について基本的な知識を理解している。	
3学期	Ⅷ 3年生の施設実習に向けて	Ⅶ 3年生の施設実習に向けて 1 介護現場を想定した事例問題(認知症高齢者) 2 介護現場を想定した事例問題(脳血管障がい) 3 1年間の振り返り	○	○ ○	○	○ ○	a:２年生での実習を振り返り、３年生の実習に向けて主体的に目標を立てることができる。 b:介護現場を想定した事例問題について、２年間学習してきた知識や技能を使って思考を深め、適切に表現している c:３年生での施設実習に向けて実習日誌等の様々な資料を収集し、適切に活用することができる。 d:認知症高齢者や脳血管障がいについて医学的側面、心理、行動について基本的な知識を理解している。	・学習状況の観察 ・ワークシート ・小テスト ・定期考査

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:技能 d:知識・理解

※令和３年度以前入学生用

教科	福祉	科目	介護実習	単位数	５単位	年次	２年次
使用教科書	なし						
副教材等	介護実習日誌（自主教材）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

校内の各福祉科目を通じて学んだ介護知識・介護技術を基礎として、実際の介護現場で介護職員の指導のもと利用者の方にとってよりよい介護方法について学んでいきます。

①デイサービスや特別養護老人ホームなどの社会福祉施設での実習に対して、主体的に参加し、職員の方から食事、入浴、排せつ介助などの基本的な介護技術を積極的に学び、実践しましょう。

②国家資格である介護福祉士の受験資格を取得するために必要な科目です。

③６月に５日間、７月に６日間、８・９月に９日間の集中授業となります。（１学期・２学期）

④新型コロナウイルス感染症予防対策により、高齢者施設での実習を校内での実習に代替して実施する場合があります。

2　学習の到達目標

介護に関する体験的な学習を多様な介護の場において行い、知識と技術を統合させ、介護従事者としての役割を理解させるとともに、適切かつ安全な介護ができる実践的な能力と態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	多様な介護現場や介護福祉士について関心を持ち、介護を必要としている人の気持ちに寄り添った援助ができるよう、主体的に取り組むとともに実践的な態度を身に付けている。	サービス利用者一人ひとりの生活における諸問題の解決に向けて思考を深め、基礎的な知識と技術をもとに、介護福祉士として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	介護を実践する際に必要な尊厳の保持や自立支援の観点に立った基本的な技術を統合し、介護職員の指導のもと根拠にもとづいて安全に支援できる技術を適切に活用している。	サービス利用者一人ひとりの生活や個性を尊重した基礎的・基本的な知識を統合し、高齢者や障がい者の尊厳保持や自立支援による適切かつ安全な介護の基本を理解している。
評価方法	・施設実習への参加 ・実習中の態度 ・振り返りシート	・介護技術の実践 ・実習日誌 ・振り返りシート	・介護技術の実践 ・実習日誌 ・振り返りシート	・介護技術の実践 ・実習日誌 ・振り返りシート
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	Ⅰ 施設実習(デイサービス・デイケア　6月5日間)	Ⅰ 施設実習(デイサービス・デイケア、6月5日間) 1 介護従事者としての身だしなみ・言葉遣いなどのマナーについて	○		○		a:介護職員や利用者に対して、挨拶や敬語を用いたコミュニケーションを主体的に図ろうとしている。 c:介護従事者としてふさわしい身だしなみ、言葉遣いなどのマナーを身に付けている。	・施設実習への参加 ・実習中の態度 ・介護技術の実践 ・実習日誌 ・振り返りシート
		2 施設の概要や生活支援目標・理念について				○	d: 実習施設の概要や生活支援目標・理念について理解している。	
		3 施設の日課について		○	○		b: 施設の日課をふまえて、次の行動を考えて実践することができる。 d: 施設の日課について理解している。	
		4 介護福祉士の役割について	○			○	a: 介護福祉士の仕事について、興味・関心を持って、主体的に質問している。 d: デイサービスやデイケアでの介護福祉士の役割について理解している。	
		5 利用者とのコミュニケーションについて	○	○			a: 利用者に興味・関心を持って、主体的にコミュニケーションを図っている。 b:利用者の趣味や関心に応じたコミュニケーションの内容を考えることができる。 d:利用者の趣味や関心に応じた話題を理解している。	
		6 利用者の生活について	○			○	a:利用者の方の生活について興味・関心を持ち、主体的にコミュニケーションを図っている。 d: どのような高齢者がサービスを利用し、また自宅ではどのような生活を送っているのか理解している。	

※令和３年度以前入学生用

		7 介護技術の見学について	○			○	a:介護職員の介護技術について主体的に見学を行い、わからない点は質問し、探究しようとしている。 b:介護職員が実践している介護技術について、「なぜ」という視点を持って考察することができる。 c:様々な介護職員による利用者にとって安全・安楽な介護技術を見学し、適切に活用している。 d:デイサービス等での基本的な介護（入浴・食事・移動介助など）について、その介護の根拠を理解できている。	
		8 レクリエーションの意義と役割について	○		○		a:介護職員のレクリエーションについて主体的に見学を行い、わからない点は質問し、探究しようとしている。 b:利用者の意欲を引き出す声掛けの方法について考察することができる。 c:様々な介護職員による利用者にとって安全・安楽なレクリエーション方法を見学し、適切に活用している。 d:デイサービスやデイケアでのレクリエーションの意義と役割について理解している。	
		9 記録の仕方～実習日誌～		○	○		a:一日の活動を振り返って、最後の行まで記録し、自らの学習内容について探究しようとしている。 b:介護職員が実践している介護技術について、「なぜ」という視点を持って考察することができる。 c:実習の様々な場面で利用者に関する情報を収集し、適切に選択し、活用している。 d:誤字・脱字がなく、実習中の経験や学びが記入できている。	

※令和３年度以前入学生用

		10 最終カンファレンス		○		○	a:カンファレンスに参加された介護職員のアドバイスを活かして、7月の施設実習に向けてよりよい介護について探究しようとしている。 b:デイサービス等の 5 日間の実習を通じて、介護技術について「なぜ」という視点を持って考察し、表現することができる。 c:デイサービス等の５日間実習を通じて、目標としていた介護技術を身に付けている。 d:デイサービス等での基本的な介護（入浴・食事・移動介助）の目的や意義について理解できている。	
2学期	㈡ 施設実習（グループホーム 7月6日間）	Ⅱ 施設実習（グループホーム、7月6日間） 1 介護従事者としての身だしなみ・言葉遣いなどのマナーについて	○		○		a:介護職員や利用者に対して、挨拶や敬語を用いたコミュニケーションを主体的に図ろうとしている。 c:介護従事者としてのふさわしい身だしなみ、言葉遣いなどのマナーを身に付けている。 d:敬語を用いたコミュニケーションについて理解している。	・施設実習への参加 ・実習中の態度 ・介護技術の実践 ・実習日誌 ・振り返りシート
		2 施設の概要や生活支援目標・理念について			○	○	b:グループホームの概要や生活支援目標・理念について理解を深め、工夫している点や重要視している点を考察している。 d:グループホームの概要や生活支援目標・理念について理解している。	
		3 施設の日課について	○		○		a:施設の日課について、興味や関心を持ち、５分前行動を心がけている。 c:施設の日課をふまえて、次の行動を考えて実践できる。 d:施設の日課について理解している。	

※令和３年度以前入学生用

		4 介護福祉士の役割について	○	○			a: 介護福祉士の仕事について興味・関心を持って主体的に質問し、介護福祉士の役割について探究しようとしている。 b:グループホームでの見学を通じて、介護福祉士の役割について考察し、表現することができる。 d:介護福祉士の役割について理解している。	
		5 認知症高齢者とのコミュニケーションについて		○	○		a: 認知症高齢者とコミュニケーションを主体的に図り、利用者一人ひとりに応じたよりよいコミュニケーション方法について探究しようとしている。 b:認知症高齢者の気持ちを考察し、工夫してコミュニケーションを図ろうとしている。 c:様々な介護職員の基礎的なコミュニケーション技法を見学し、適切に活用している。 d:認知症高齢者に伝える方法として、非言語的なコミュニケーションを多く取り入れてコミュニケーションを図ることを理解している。	
		6 認知症高齢者の人権やプライバシーを尊重した介護について		○	○		a:認知症高齢者と主体的に関わり、人権やプライバシーを尊重した介護について探究しようとしている。 b:認知症高齢者の人権やプライバシーを尊重した介護について考察することができる。 c:様々な介護職員の認知症高齢者の人権やプライバシーを尊重した技能を見学し、適切に活用している。 d:認知症高齢者の人権やプライバシーに配慮した介護とは具体的にどのようなものかを理解している。	

※令和３年度以前入学生用

		7 介護技術の見学・実践について			○	○	a:介護職員の介護技術について主体的に見学や実践を行い、わからない点は質問し、探究しようとしている。 b:介護職員が実践している介護技術について、「なぜ」という視点を持って考察することができる。 c:様々な介護職員による利用者にとって安全・安楽な介護技術を見学し、適切に活用している。 d:グループホームでの基本的な介護（入浴・食事・移動介助）の目的について理解できている。	
		8 担当利用者の BPSD(周辺症状)について	○	○			a:担当利用者に興味や関心を持って BPSD（周辺症状）について情報収集を行い、よりよい介護に向けて探究しようとしている。 b:担当利用者の気持ちを考察し、工夫して情報収集を図ろうとしている。 c:実習の様々な場面で担当利用者に関する情報を収集し、適切に選択し、活用している。 d:担当利用者の BPSD（周辺症状）について適切に理解している。	
		9 記録の仕方～実習日誌～		○	○		a: 一日の活動を振り返って、最後の行まで記録し、自らの学習内容について探究しようとしている。 b:介護職員が実践している介護技術について、「なぜ」という視点を持って考察することができる。 c:実習の様々な場面で利用者に関する情報を収集し、適切に選択し、活用している。 d:誤字・脱字がなく、実習中の経験や学びが記入できている。	

※令和３年度以前入学生用

		10 最終カンファレンス		○		○	a:カンファレンスに参加された介護職員のアドバイスを活かして、8月の9日間実習に向けてよりよい介護について探究しようとしている。 b:グループホームの６日間の実習を通じて、認知症高齢者の言動について「なぜ」という視点を持って考察し、表現することができる。 c:グループホームの６日間実習を通じて、目標としていた介護技術を身に付けている。 d:グループホームでの基本的な介護（入浴・食事・移動介助）の目的や意義について理解できている。	
	目 施設実習（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設 8・9月9日間）	Ⅲ 施設実習（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、8・9月9日間） 1 介護従事者としての身だしなみ・言葉遣いなどのマナーについて	○		○		a:職員の方や利用者の方に対して、挨拶や敬語を用いたコミュニケーションを主体的に図ろうとしている。 c:介護従事者としてふさわしい身だしなみ、言葉遣いなどのマナーを身に付けている。 d:敬語を用いたコミュニケーションについて理解している。	・施設実習への参加 ・実習中の態度 ・介護技術の実践 ・実習日誌 ・振り返りシート
		2 施設の概要や生活支援目標・理念について		○		○	b:実習施設の概要や生活支援目標・理念について理解を深め、工夫している点や重要視している点を考察している。 d:実習施設の概要や生活支援目標・理念について理解している。	
		3 施設の日課について	○		○		a:施設の日課について、興味や関心を持ち、５分前行動を心がけている。 c:施設の日課をふまえて、次の行動を考えて実践できる。 d:施設の日課について理解している。	

※令和３年度以前入学生用

		4 介護福祉士の役割について	○	○			a: 介護福祉士の仕事について興味・関心を持って主体的に質問し、介護福祉士の役割について探究しようとしている。 b:介護現場での見学を通じて、介護福祉士の役割について考察し、表現することができる。 d:介護福祉士の役割について理解している。	
		5 利用者とのコミュニケーションについて		○	○		a: 利用者とのコミュニケーションを主体的に図り、利用者一人ひとりに応じたよりよいコミュニケーション方法について探究しようとしている。 b:利用者の気持ちを考察し、工夫してコミュニケーションを図ろうとしている。 c:様々な介護職員の基礎的なコミュニケーション技法を見学し、適切に活用している。 d:高齢者の趣味や関心に応じた話題を理解している。	
		6 利用者の人権やプライバシーを尊重した介護について		○	○		a: 利用者と主体的に関わり、人権やプライバシーを尊重した介護について探究しようとしている。 b:利用者の人権やプライバシーを尊重した介護について考察することができる。 c:様々な介護職員の利用者の人権やプライバシーを尊重した技能を見学し、適切に活用している。 d:利用者の人権やプライバシーとは具体的にどのようなものかを理解している。	

※令和３年度以前入学生用

		7 介護技術の見学･実践について			○	○	a:介護職員の介護技術について主体的に見学や実践を行い、わからない点は質問し、探究しようとしている。 b:介護職員が実践している介護技術について、「なぜ」という視点を持って考察することができる。 c:様々な介護職員の利用者にとって安全･安楽な介護技術を見学し、適切に活用している。 d:特別養護老人ホーム等での基本的な介護（入浴・食事・移動介助）の目的について理解できている。	
		8 利用者の情報収集の図り方	○	○			a:担当利用者に興味や関心を持って情報収集を行い、よりよい介護に向けて探究しようとしている。 b:担当利用者の気持ちを考察し、工夫して情報収集を図ろうとしている。 c:実習の様々な場面で利用者に関する情報を収集し、適切に選択し、活用している。 d:コミュニケーションや観察、ケア記録など情報収集の方法を理解している。	
		9 記録の仕方～実習日誌～		○	○		a: 一日の活動を振り返って、最後の行まで記録し、自らの学習内容について探究しようとしている。 b:介護職員が実践している介護技術について、「なぜ」という視点を持って考察することができる。 c:実習の様々な場面で利用者に関する情報を収集し、適切に選択し、活用している。 d:誤字・脱字がなく、実習中の経験や学びが記入できている。	

※令和３年度以前入学生用

		10　中間カンファレンス		○		○	a:1週目の実習の様子を振り返り、介護職員のアドバイスを取り入れた実習を主体的に実践しようとしている。 b:特別養護老人ホーム等の 1 週目の実習を通じて、介護技術について「なぜ」という視点を持って考察し、表現することができる。 c:特別養護老人ホーム等の 1 週目の実習を通じて、目標としていた介護技術を身に付け、その介護の根拠を説明できる。 d:特別養護老人ホーム等での基本的な介護（入浴・食事・移動介助）の目的や意義について理解できている。	
		11　最終カンファレンス		○		○	a:カンファレンスに参加された介護職員のアドバイスを活かして、３年生の実習に向けてよりよい介護について探究しようとしている。 b:特別養護老人ホーム等の９日間の実習を通じて、介護技術について「なぜ」という視点を持って考察し、表現することができる。 c:特別養護老人ホーム等の９日間実習を通じて、目標としていた介護技術を身に付け、その介護の根拠を説明できる。 d:特別養護老人ホーム等での基本的な介護（入浴・食事・移動介助）の目的や意義について理解できている。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。